

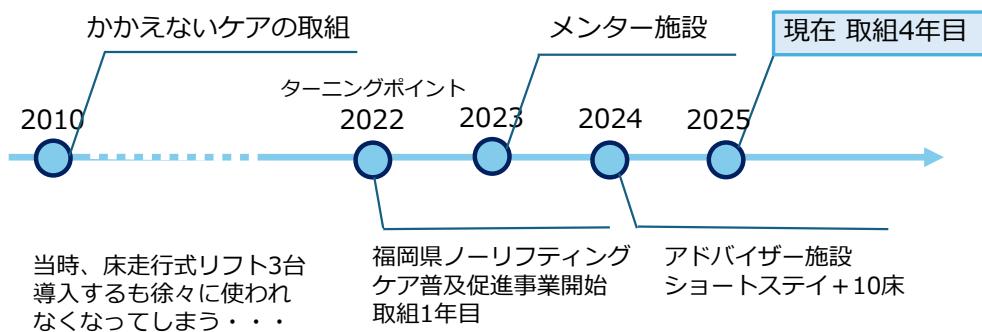
ノーリフティングケア 4年目の変化



小さくともキラリと光る法人を目指して
社会福祉法人 八女福祉会

特別養護老人ホーム八女の里

これまでの歩み



2025年（令和7年度） 施設概要

<u>長期入所定員／ショートステイ</u>	: 50床／30床
<u>平均要介護度</u>	: 3.8
<u>介護職員の常勤換算数</u>	: 22.4人
<u>職員の平均年齢</u>	: 35.8歳

福祉用具の環境

<u>スライディングボード</u>	: 7枚+α (Easy Glide M) + (手作り)
<u>スライディングシート</u>	: 7枚 (手作り)
<u>スライディンググローブ</u>	: 2枚 (手作り)
<u>床走行リフト</u>	: 2台 (KQ-781)
<u>スタンディングリフト</u>	: 1台 (Hug L1)

ノーリフティングケア取組における当施設の課題

課題 1

ノーリフティングケア取組開始時、高さ調整できないベッドは利用者全体の半数を占めていた。



リネン交換、体位交換等の業務における無理な姿勢による負担が多かった。

課題 2

主にトイレでの排泄介助時、立位保持に介助が必要な利用者を抱え上げしていた。

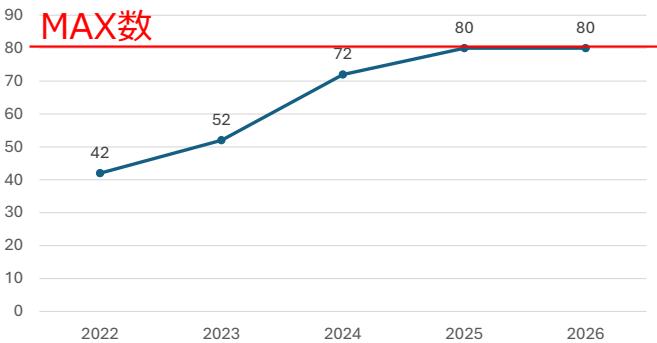


1名は抱え上げ介助、もう1名はズボンの上げ下ろし介助で、2名介助で実施していた。

福祉機器導入プロジェクト1

プロジェクト名	2022	2023	2024	2025	2026
電動ベッド導入計画	10台 導入済	10台 導入済	10台 導入済	8台 導入予定	

電動ベッド台数



電動ベッド導入による高さ調整時の姿勢変化

Before



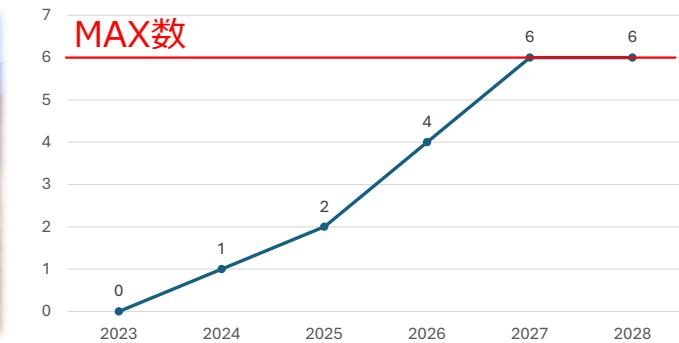
After



福祉機器導入計画プロジェクト2

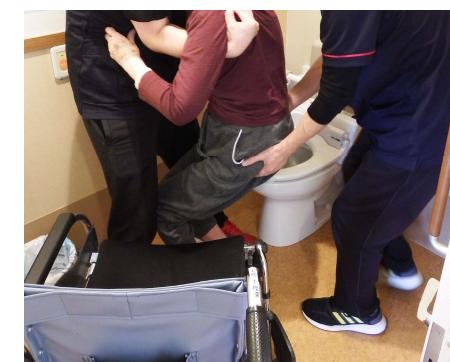
プロジェクト名	2023	2024	2025	2026	2027	2028
スタンディングリフト全フロア普及計画		Hug1台 レンタル	Hug2台 導入予定	Hug2台 導入予定	Hug2台 導入予定	

Hug台数



スタンディングリフト活用による抱え上げ負担の変化

Before



After



職員2名介助 抱え上げあり

職員1名介助 抱え上げなし

Hugを選んだ理由

- 操作手順がシンプルで、立位まで約1分程度で可能
- クッションフロアでの操作性軽い
- リモコン操作により後方からのズボン等の着脱しやすい
- 立位保持による機能訓練の機会となる

その他の取組1 手作りのボード、シート、グローブ

◆手作りボード

(※転落のリスクが伴うため、もし使用する際は安全性を各施設で判断をお願いします)

- ① プラダンを470×470mm程度に4枚カットする。
- ② 強度を強める為、内部補強材方向が互い違いになるよう2枚ずつ重ねて、右写真のように長方形となるように4枚並べる。
- ③ 折りたたみできるように中央と周囲を養生テープ等で固定する。



◆手作りシート

- ① ナイロン生地を2枚用意する。
- ② 2枚のナイロン生地を平行に2辺だけ縫い合わせる。
- ③ 縫い代が見えないように全体を裏返す。

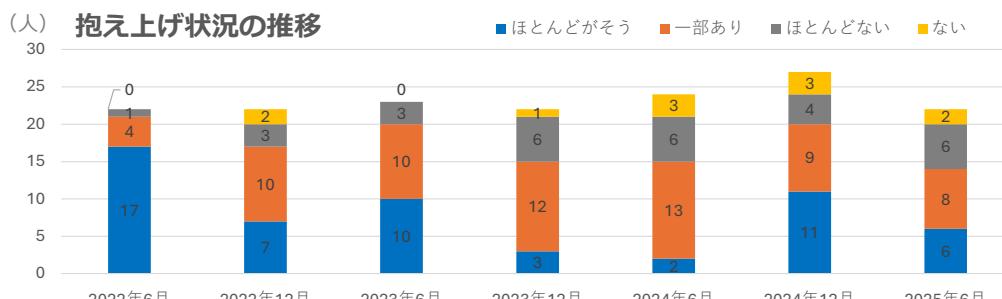
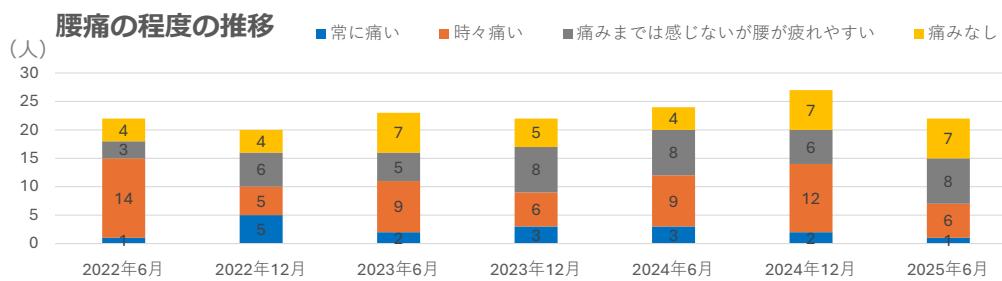


◆手作りグローブ

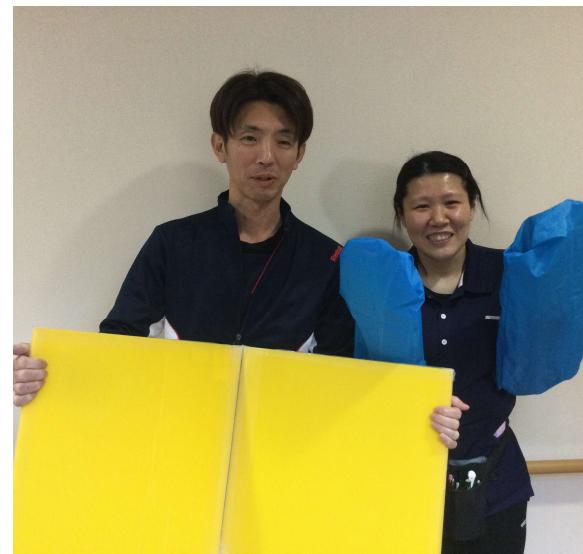
- ① ナイロン生地を550×550mm程度にカットする。
- ② 一辺を端から3cm程度折り返しゴム紐を通して縫い合わせる。
- ③ 縫い合わせた折り返しが外側になるよう半分に折り、折り返し側が入口になるように袋の形に縫い合わせる。
- ④ ゴム紐を通して結んだら、縫い代が見えないように全体を裏返す。



介護職員腰痛アンケートの結果



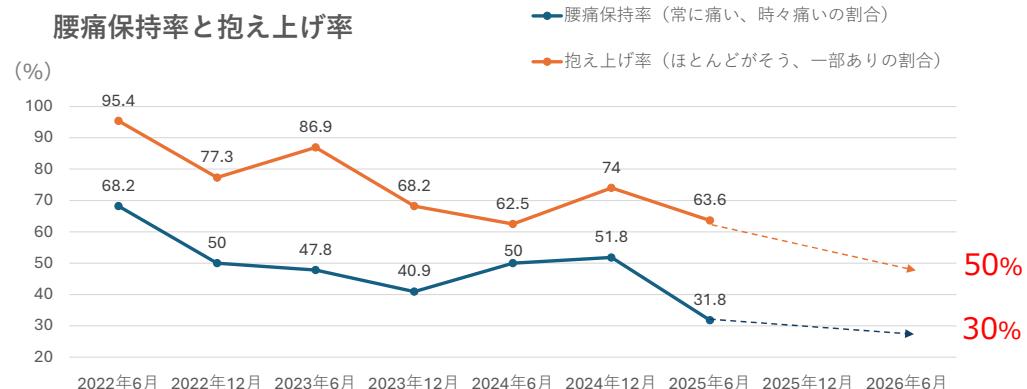
その他の取組2 施設内部研修



元々腰痛持ちで、腰痛の辛さを知っている2人
今年度の研修を受講し施設内での職員教育担当に

法人内他事業所との研修等も

まとめ



- ・取組4年目、電動ベッド普及による職員の姿勢の改善により腰痛保持率が低下。
- ・スライディングボード等の活用により、直近の抱え上げ率は63.6%と低下したものとの、全体の半数を切る事はできていない。

スタンディングリフト普及により、**抱え上げ率50%以下**を目指す。
その結果、**腰痛保持率30%以下**達成へ。